

# 各WGの振り返りと今後の進め方

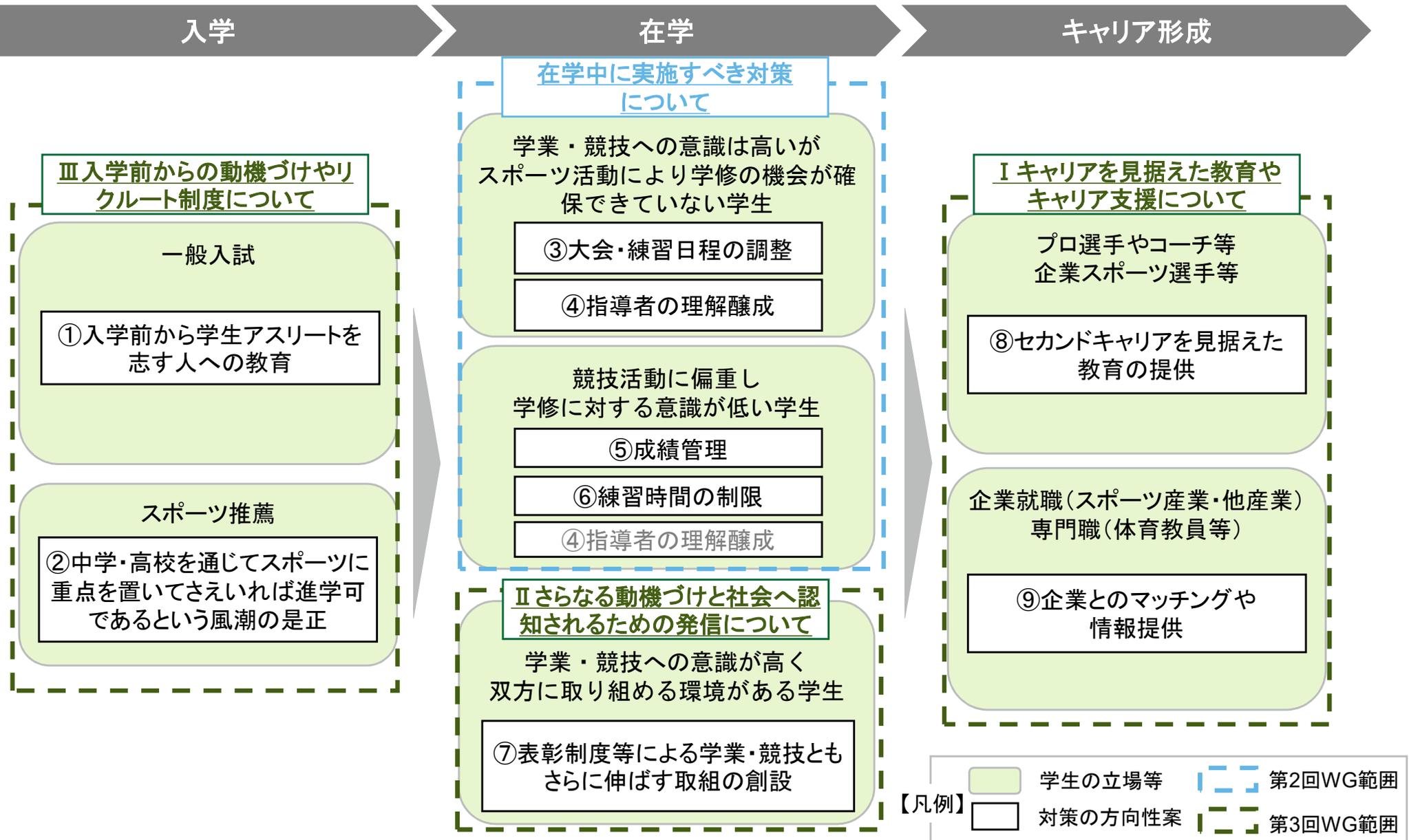
日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会  
第3回マネジメントWG

2018年2月2日(金)15時～18時

# 学業充実WGでの検討結果

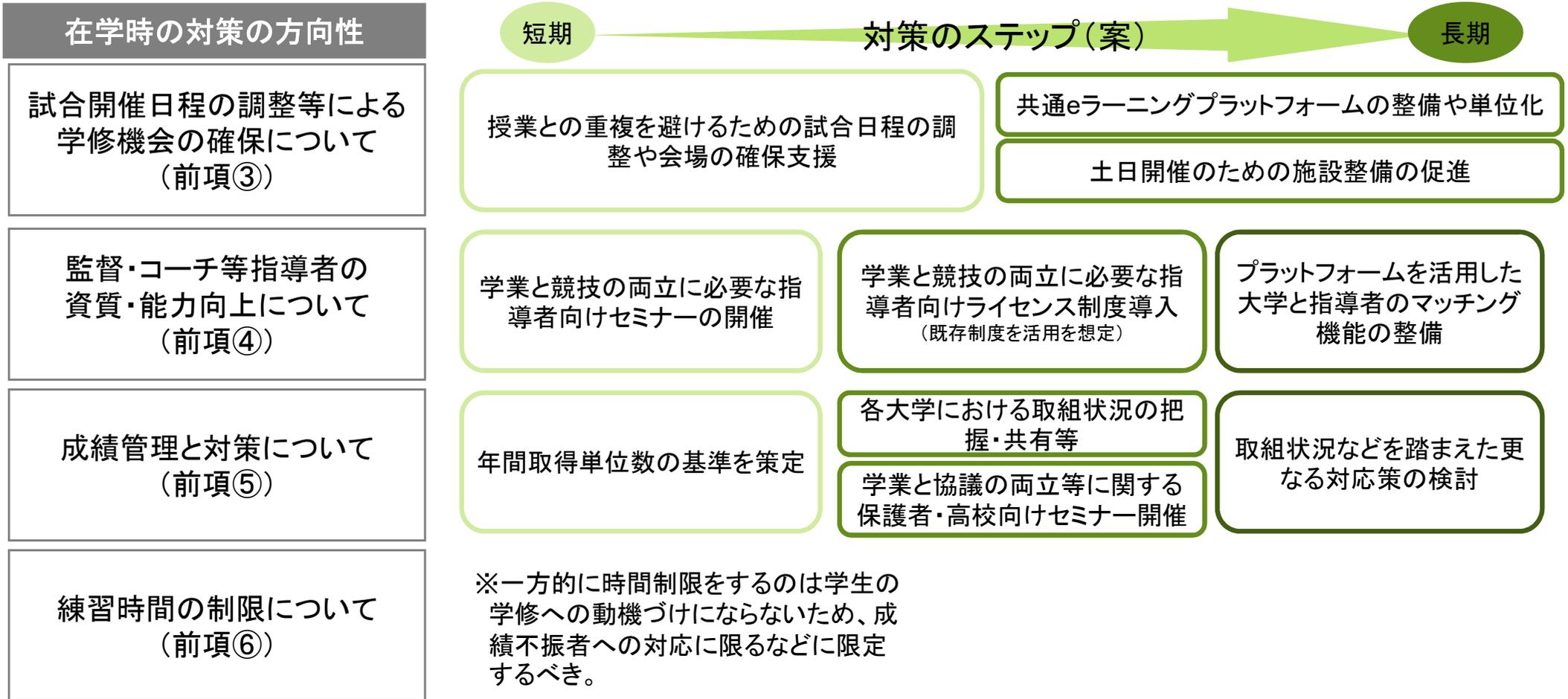
# 第1回学業充実WG「学生アスリートが置かれている環境・課題の整理」の議論の整理

学生の意識(学生の入学方法や卒業後の進路等に起因)や置かれている環境に応じて求められる対策が異なる事が議論された。時期や立場に応じた対策を講じることで学業と競技を高いレベルで両立できるのではないか。



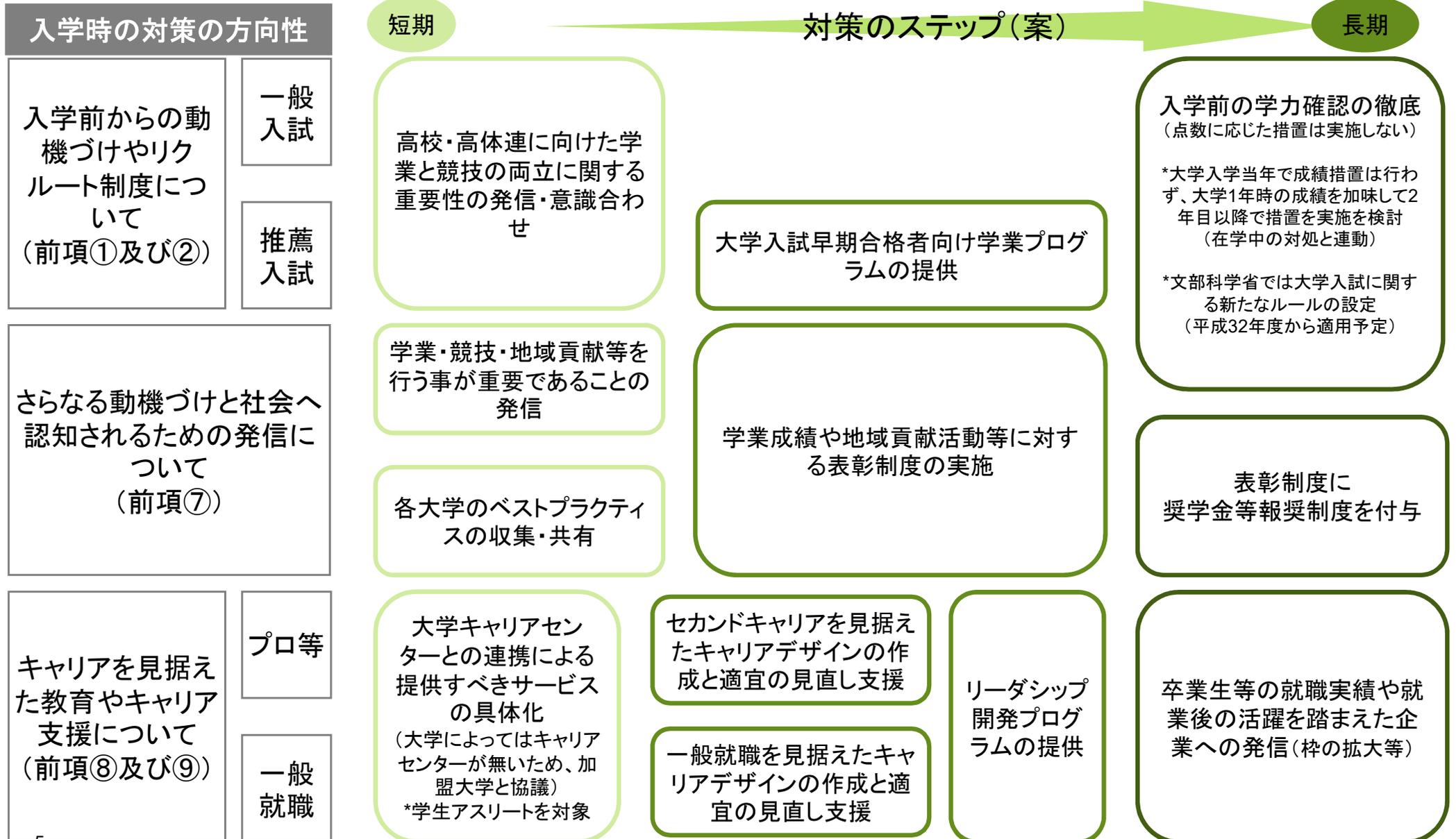
# 第2回学業充実WG「在学中に実施すべき対策案と日本版NCAAの役割」の議論の整理

在学時における対策の具体化と短期対策・中長期的対策が討議を通じて提示された。



# 第3回学業充実WG「日本版NCAAが実施すべき対策案」の整理(概要)

キャリア形成・表彰制度・入学時における対策の具体化と短期対策・中長期的対策が討議を通じて提示された。



# 第3回学業充実WG「日本版NCAAが実施すべき対策案」の整理(詳細①)

## I. キャリアを見据えた教育やキャリア支援について

### 討議内容

#### ✓ <支援すべき対象>

学生アスリート全般を支援の対象とすべきだと考える。但し、注力すべきは学生アスリートの中で母数が多いと想定される、一般就職を考えている学生アスリートではないか。卒業生のセカンドキャリア支援等も含めて対象とすべき人物の窓口は広く取っておくべきである。

#### ✓ <日本版NCAAが実施すべき事項(案)>

日本版NCAAは各大学のキャリアセンターと連携しながら、学生アスリートに特化した支援や各大学へプログラムの提供をするべきだと考える。以下は実施すべき事項案。

##### • キャリアデザイン作成支援

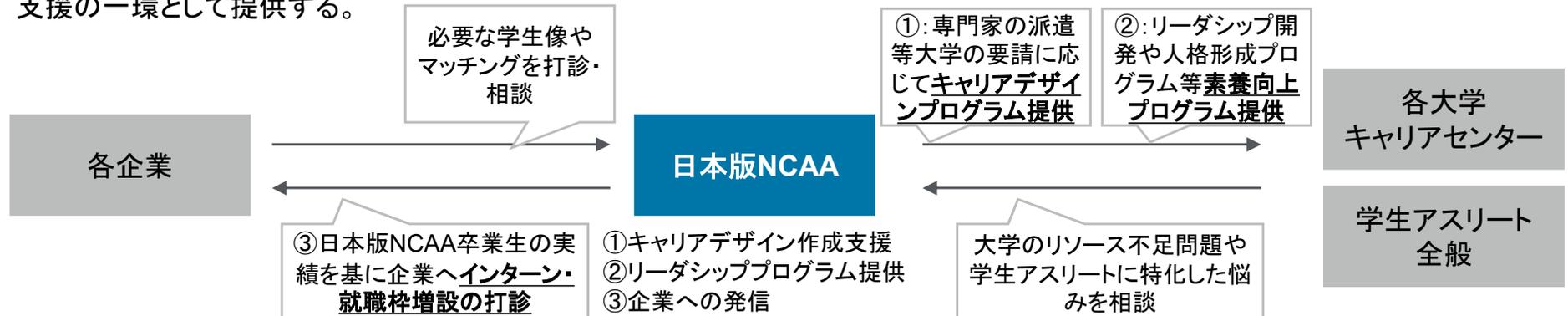
プロや企業スポーツ選手を目指す学生アスリートに対しても、一般就職を併せて検討するよう指導するなど、セカンドキャリアを見据えたキャリアデザイン作成を支援。一般就職を目指す学生アスリートには入学時からキャリアを見据えたキャリアデザイン作成支援を提供すべきと考える。個々の大学は、キャリアセンターにアスリート担当を配置するなどし、日本版NCAAが担当者間の情報共有を促進すべき。

##### • 日本版NCAAブランドを企業へ発信

日本版NCAA加盟大学を卒業する学生アスリートの目指すべき人材像を学生憲章などの形で提示し、リーダーシップなどの素養を備えているという事を企業へ発信することにより、就職の枠を提供してもらえるような働きかけが必要だと考える。また、学生アスリートが参加可能なスケジュールでのインターンシップ機会の拡大を要請する。

##### • リーダシッププログラムの提供

上記ブランド力を強化する上でも、学生アスリートの全般的な人間力向上のため、独自にセミナーや育成プログラムをキャリア形成支援の一環として提供する。



# 第3回学業充実WG「日本版NCAAが実施すべき対策案」の整理(詳細②)

## II. さらなる動機づけと社会へ認知されるための発信について

### 討議内容

- ✓ <施策案>  
表彰制度等が必要ではないか。
- ✓ <対象>  
学生アスリート、コーチ・監督等の指導者、体育局等の関係者(スタッフ)を対象に表彰制度があると良い。
- ✓ <表彰制度の基準>  
学業成績(GPA)・競技成績・地域貢献等、理念に沿った行動を行った場合に表彰をする。
- ✓ <表彰制度を整えるために実施すべき事項(案)>  
日本版NCAAの表彰制度を実現し広めていくためには、大学側から優秀な学生等を推薦してもらう仕組みや、単なる表彰状ではなく奨学金等の動機づけ、また、候補者のプレゼン大会を行うなどの盛り上がるための工夫等を実施すべきだと考える。但し、表彰については、立ち上げ当初から実施するのではなくベストプラクティスが溜まった後期に実施すべきであると考え。

#### ステップ1

##### 『理念に基づく表彰基準を関係者へ周知』

- 学業成績、競技成績、地域貢献に関して総合的に高いレベルで取り組む事が大切であることを周知
- 競技をしている学生だけでなく、マネージャーやAD局等表彰すべき対象が広いことも併せて周知

##### 『実績に基づくベストプラクティスの収集』

- 表彰の枠を作るのではなくまずは表彰に値する実績を集める

#### ステップ2

##### 『表彰の実施とスポンサー集め』

- 実績に基づき表彰基準を策定する
- 日本版NCAAとして選出するだけでなく、各大学の推薦制度等を取ることを検討
- 表彰日本版NCAAが勝手に選出(ブラックボックス化)するのではなく、候補者同士のプレゼン大会を実施するなど対外的に発信する場を設けることで、社会認知度の向上や、プレゼンを通じた学生等の成長の場も提供する
- 表彰を繰り返すことでスポンサーや寄付も集める

#### ステップ3

##### 『報奨を含めた表彰の検討』

- スポンサー等の原資を基に、表彰者へ奨学金制度を導入する等のさらに動機づけとなるような表彰制度を検討する

# 第3回学業充実WG「日本版NCAAが実施すべき対策案」の整理(詳細③)

## Ⅲ. 入学前からの動機づけやリクルート制度について

### 討議内容

#### ✓ <施策案>

入学する学生アスリートの学力を関係者が把握する事をベースにして、入学した際にどのように学力を向上させるかという検討を促進する事が日本版NCAAに求められているのではないか。

- **競技成績でリクルートされた学生も学力をしっかりと確認するための仕組みづくり**

文部科学省ではAO入試においても「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」も適切に評価するなどのルールの見直しを予定。これとも連動して、学生アスリートがどの程度の学力を有しているか、学生も大学も把握しておくことが、今後の指導やキャリア支援に肝要であると考えため、入学前にしっかりと学力を確認することとしてはどうか。

- **成績と連動した対応策の強化**

中長期的には、学業成績に応じて各種対応策を練る必要があると考えている。リクルートされた学生に関しては、学力に応じて1年目の試合参加を制限することや、大学1年目の学業の状況を加味して2年目以降の競技参加に関して一定の措置を課すことを検討してはどうか。

- **早期に大学入学が決定した学生アスリートへの学業支援プログラムの提供**

早期に大学入学が決まった場合、高校在学時に競技だけでなく学力向上にも取り組めるようなプログラム提供を行う。高校に対しても、高校時代の学業の重要性についてセミナーや教員・コーチ向けの研修を行う。

#### ✓ <期待効果>

上記の様に、入学の可否には直接的に関係しないが、試験を受験しなくてはならない環境や、長期的には入学後の競技生活にも影響があるという事が浸透すれば、おのずと**高校生活から勉学に励む文化が醸成**されると考える。また、学生が競技と学業の両立をすべきだと考えると、**指導者に求められる資質も変わり、ブラック部活等の是正にも役に立つ**のではないか。

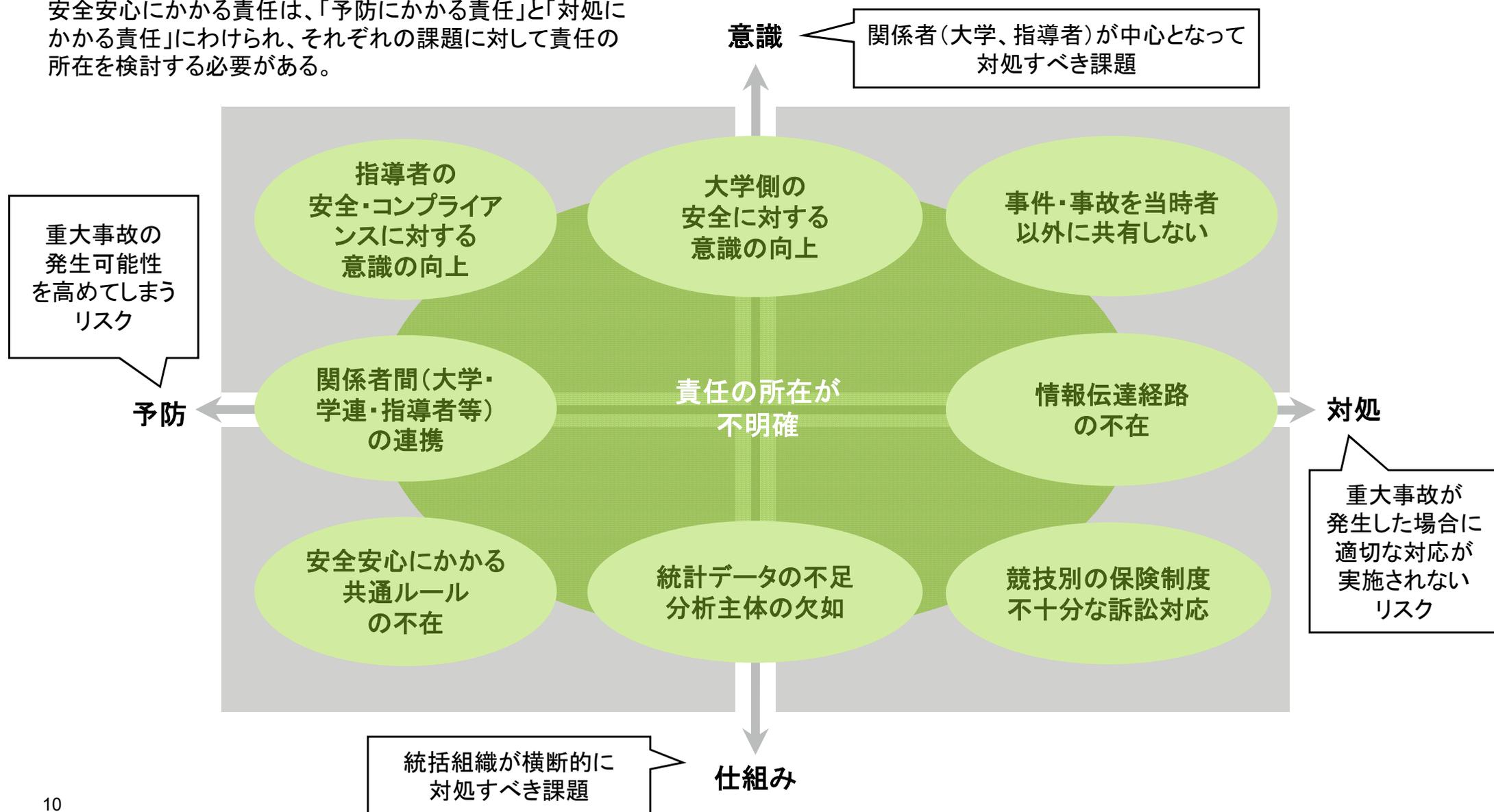


# 安全安心WGでの検討結果

# 第1回安全安心WGの議論の整理

「学生アスリート等が安全・安心に活動できる環境を整えるためになすべきこと」について議論された。  
 認識された課題は意識の問題から構造的な仕組みの問題に分けることができ、根本には責任の問題がある。

安全安心にかかる責任は、「予防にかかる責任」と「対処にかかる責任」にわけられ、それぞれの課題に対して責任の所在を検討する必要がある。



# 第2回安全安心WGの議論の整理

第2回WGでは、日本版NCAAが整備すべき安全安心に関する取り組みに関して、直ぐにでも整備を進めなければならない命に関わる分野から、中長期的に整備を進めるものまで、広く議論が行われた。

短期

長期

情報の集約化

事故や事件(ヒヤリ・ハットを含む)の  
情報収集体制の構築、関係者との共有

※競技団体の対策、医学会での取組、保険を通じた蓄積など大学関係に留まらない情報の収集共有と対策の充実を目指す

安全安心にかかる  
共通ルールの設定

生死・重い後遺症を引き起こす重大事故を防ぐための  
共通ガイドラインの徹底

- ・専門機関が提供している既存ガイドラインを利用
- ・種目に関わらず講じるべき対策として推進

<具体的取組>

- 「脳・頸椎」: 脳震盪を起こした時の対処と事後ルール
- 「心臓」: AEDの設置、AEDの使用方法に関する研修や体験会の実施
- 「熱中症」: WBGT温度計の設置、WBGTを活用した熱中症対策

けが・病気の予防のため  
の取組の拡充

- ・スポーツマウスガードの使用など「歯・口腔」を守る対策の普及
- ・競技ごとの安全対策ハンドブックの配布など対策の普及

- 最新の状況を踏まえたガイドライン等への更新
- 新たなルールの作成
- 関係機関との共同研究

現場の体制構築のため  
の連携

大学・NF・学連・指導者等の優良取組事例の横展開

<具体的取組>

- ・チームドクター配置についての大学医学部との連携
- ・競技種目ごとの安全対策との連携

チームドクター・トレーナーの責任と権限の確立

大学教育における位置づけの確立

指導者の安全に対する  
意識の向上

指導者ライセンス制度の導入  
(既存の制度の活用を想定)

安全やコンプライアンス等に関する  
指導者に対する研修・講習の実施

優秀な指導者と各大学・運動部活動のマッチング

# 第3回安全安心WGの議論の整理(概要)

第3回WGでは、日本版NCAAが整備すべき事故対応に関する取り組みに関して、日本版NCAAとして実施すべきものから、大学等(学連・NF・指導者等)の関係者が実施すべきものまで、広く議論が行われた。

	日本版NCAA			会員大学		
事故への適切な対応	<p>応急対応に関するガイドブック・ハンドブックの作成・配布</p>	<p>応急対応講習会の実施</p>	<p>事故対応アシストツールの開発・提供</p>	<p>トレーナー・適切な指導者の現場配置</p>	<p>応急対応についてのドクターとの連携</p>	<p>緊急連絡先の整備及び救命用具マップの作成</p>
事故情報の収集・分析・活用	<p>適切な連絡経路構築に関するガイドラインの作成・配布</p>	<p>事故情報報告の徹底(報告フォームの配布、報告メモリの明確化)</p>	<p>医療研究関係機関との連携強化</p>	<p>事故情報を収集するための窓口の設置</p>	<p>学内での事故情報報告の徹底</p>	
保険制度の活用	<p>基礎的保険への加入状況の確認</p>	<p>重篤事故関連のリスク情報分析</p>	<p>既存保険をカスタマイズした段階的な保険商品の整備</p>	<p>学生選手の保険加入の確保</p>		

# 第3回安全安心WG「日本版NCAAが実施すべき対策案」の整理(詳細)

## I. 事故への適切な対応について

### 討議内容

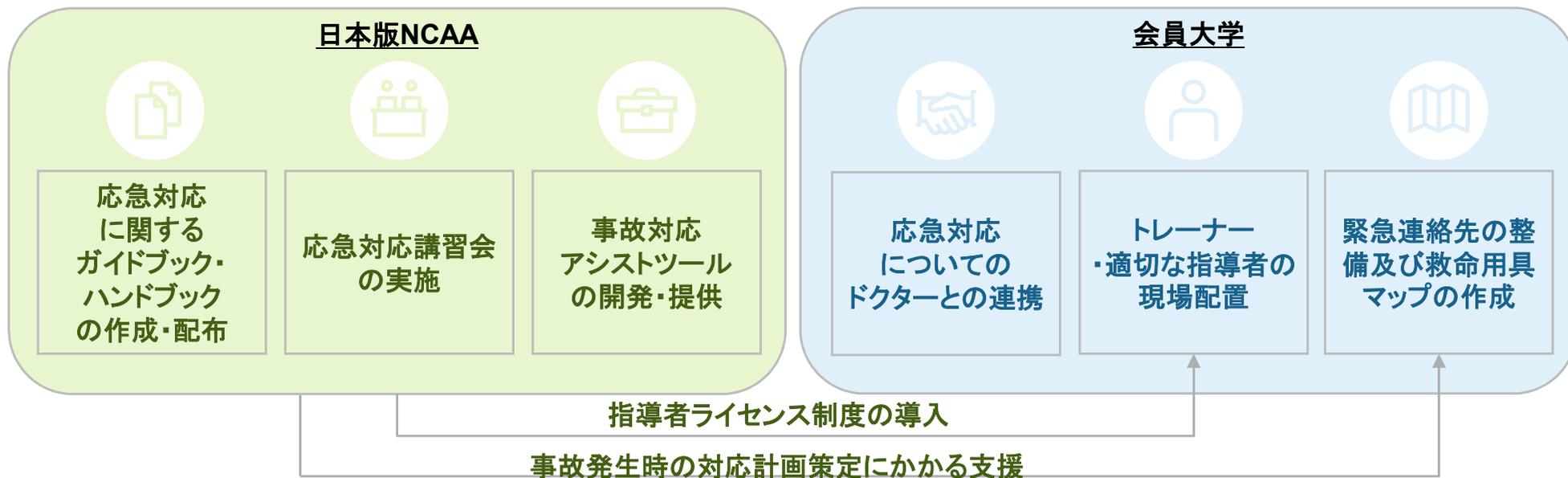
#### ✓ <目指すべき方向>

- 事故が発生した際、応急処置の知識をもった者が適切な応急処置をとることができる。
- 現場には、ドクターもしくはトレーナーが常駐していることが望ましい。
- 事故の情報を家族や関係者に、直ぐに、かつ、正確に伝達することができる。

#### ✓ <現状の課題>

- すべての学生選手や指導者が、応急処置に関する正しい知識を習得しているわけではない。また、救命に必要な器機(AED等)や薬剤(エピペン®等)がどこにあるかわからない者もいる。
- すべての現場にドクターもしくはトレーナーが常駐しているわけではなく、また、配置する場合には多額の資金が必要となる。
- 緊急連絡先が事前に整理されておらず、統一的な連絡経路、指揮命令系統が不明確なままである。

#### ✓ <日本版NCAA及び大学等(学連・NF・指導者等)の関係者が検討すべき事項(案)>

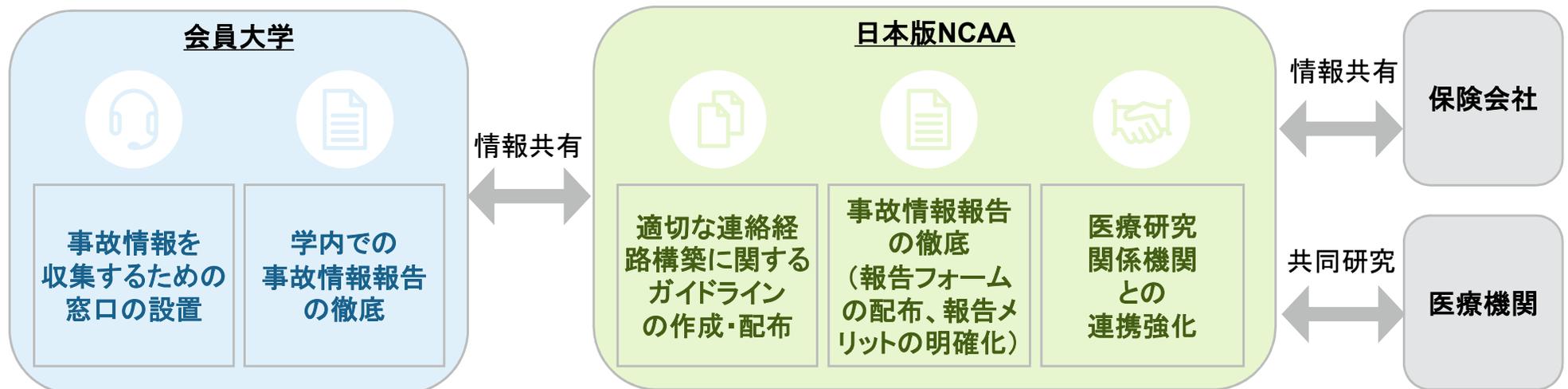


# 第3回安全安心WG「日本版NCAAが実施すべき対策案」の整理(詳細)

## II. 事故情報の収集・分析・活用について

### 討議内容

- ✓ <目指すべき方向>
  - 正確な事故情報が関係機関に適時・適切に報告される
  - 大学スポーツに関連する事故情報が漏れなく分析対象となる
  - 適切な専門機関で事故の傾向が分析され、適切な予防対策が策定される
- ✓ <現状の課題>
  - そもそも、事故情報の統一的な連絡経路がない。また、隠蔽を防止するための仕組みがなく(デメリットがない)、加えて、事故報告の説明責任にかかるサポート体制が不十分であり、事故報告にかかる関係者の理解も不足しているため、適切な報告をするインセンティブが少ない(メリットがない)。
  - 大学スポーツを切り口とした整備済みの統計情報はない。保険会社の現時点のローデータは、スポーツ以外のものや、大学以外のものが含まれてしまっているため、これをうまく切り分けなければならない。
  - スポーツ特有の事情を配慮した、大学スポーツの事故の傾向を取り扱う協力機関がない。
- ✓ <日本版NCAA及び大学等(学連・NF・指導者等)の関係者が検討すべき事項(案)>



# 第3回安全安心WG「日本版NCAAが実施すべき対策案」の整理(詳細)

## III. 日本版NCAAにおける、保険制度の活用方法について

### 討議内容

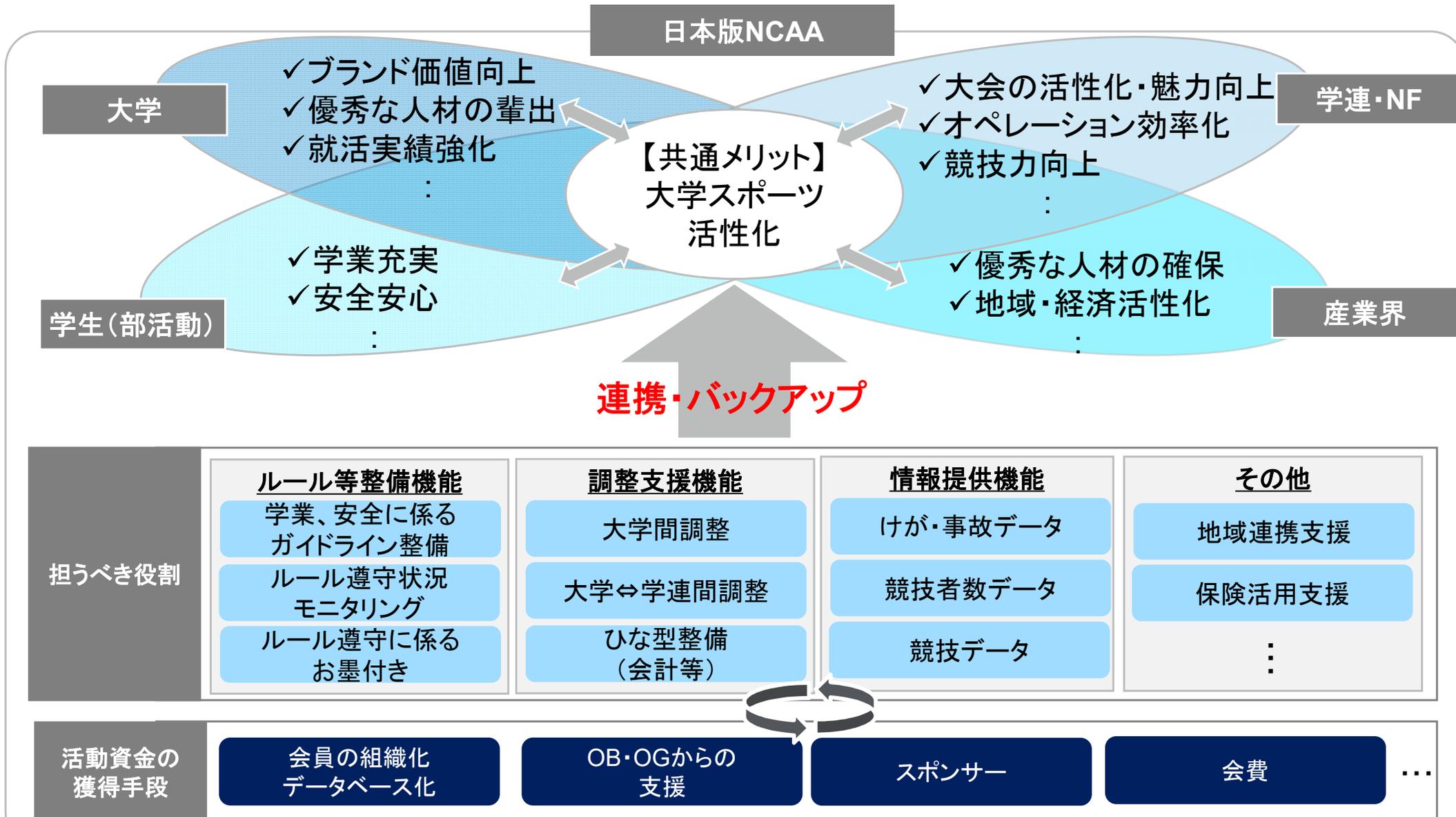
- ✓ <目指すべき方向>
  - すべての学生選手が漏れなく保険に加入し、安心してスポーツに取り組めるような環境が整備されている。
  - 重篤事故のリスクが高い競技についても、組織横断的、競技横断的に、全体としてカバーできるような仕組みがある。
  - 学研災やスポーツ安全保険といった既存の保険を活用しながら、リスクに応じた段階的な保険への加入を可能とする。
- ✓ <現状の課題>
  - 保険への加入が運動部活動や学生選手個々の判断に委ねられており、共通したフレームワークがない。
  - 個々人の経済的な理由により、本来のリスクに見合った保険に加入できていない恐れがある。
  - 運動部活動に特化した保険を整備しようとした場合、事故やケガのリスクの高い人だけが集まる状況が生まれ、結果として、保険料が高くなってしまう恐れがある。
  - 後遺症が残ってしまうような重篤事故に対する備えが十分でない可能性がある。
- ✓ <日本版NCAA及び大学等(学連・NF・指導者等)の関係者が検討すべき事項(案)>



# マネジメントWG(第1,2回)の振り返りと今後の進め方

# 第1回マネジメントWGの振り返り – 日本版NCAAの役割・機能とメリット

日本版NCAAはルール等整備機能、調整支援機能、情報提供機能等を担い、関係者の取組の連携やバックアップ支援を行うことにより、大学、学生、学連・NF界等の関係者が多様なメリットを享受できるものとする。





# 学産官連携協議会の今後の進め方

